

アグリビジネス創出フェア 2025 で トウガラシ収穫ロボットを出展

当センターが代表機関を務める「トウガラシ収穫ロボット(イチゴ兼用)開発コンソーシアム」は、11 月 26 日から 28 日に東京ビッグサイトで開催されたアグリビジネス創出フェアに出展しました。フェアには全国から 118 機関の出展がありました。

出展ブースでは、研究内容を紹介するポスター、収穫ロボットの試作機及び 10 月に実施した実証試験の動画を展示しました。ブースを訪れた様々な分野の研究者や技術者と意見交換を行い、収穫ロボットに搭載する予定の照明の種類などについて、助言を受けることができました。

今後、試作機の改良と実証試験を重ね、実用的な収穫ロボットの開発を進めていきます。

※本研究は、「スマート農業技術の開発・供給に関する事業」を活用して取り組んでいます。



会場全体の様子



出展ブース

京都府における新規発生ウイルス（CABYV）の実態調査

京都府のキュウリ栽培ほ場において、令和 5 年 7 月、日本で初めて cucurbit aphid-borne yellows virus (CABYV) の発生が確認されました。CABYV は、キュウリやメロンなどウリ科野菜の安定生産に新たなリスクとなっています。しかし、これまで府内における発生状況については明らかになっていません。

このため、当センターでは京都府における CABYV の分布や発生状況を明らかにすることを目的に、10 市町村約 40 ほ場で現地調査を実施しました。現地調査の際に採取したサンプルについて現在ウイルス検定を進めています。

今後は、得られた結果を基に、「総合的な防除技術体系マニュアル」を作成し、生産現場での活用を目指します。



CABYV 感染ほ場の様子



CABYV 感染葉

緑化センターで子どもたちが樹や森林を体感

当センターでは、森林環境の維持・増進や緑化事業の啓発を目的として、「場内樹木園」などの施設を平日に開放しており、職員による施設案内や樹木学習の支援も行っています。

10～11月には、子育て支援センターや小学校からの来所があり、参加した親子や児童は、本センター職員による森林・林業の説明や、どんぐりなどの木の実拾い、紅葉する園内の樹木探索などをおして、樹木や、森林・林業への理解を深めました。

当センターは、安全に自然や樹木と親しみ学べる施設として、夜久野高原の象徴的な存在となっています。引き続き、林木育種や優良樹種の種子生産、森林・林業についての情報発信や体験会を実施するとともに、総合学習の場としてなど、多くの府民に活用されるよう努めます。



福知山市子育て支援センター親子木の実拾い（10月23日）



綾部市志賀小学校の森林・林業の学習（11月5日）

農林センター（森林技術センター）

水稻の高温対策について講演しました

丹後米改良協会（以下、改良協会）では、毎年『丹後産コシヒカリ生産者研修会』を開催し、丹後産コシヒカリの品質向上に取り組まれています。本年は、出穂期の水不足や登熟期の高温など水稻の栽培を行う上で厳しい環境であったことから、水稻の高温対策について当センター職員が講演しました。

講演では、水稻の高温障害である不稔や未熟粒、胴割粒などの発生要因を解説するとともに、その対策の一例として、未熟粒の発生を低減する遅植試験の結果を紹介しました。

研修終了後のアンケートでは「栽培管理方法を見直す必要を感じた」「土づくりや野菜との輪作について学びたい」などの意見が寄せられ、高温対策の必要性について理解を深めてもらえました。

今後も、引き続き丹後産コシヒカリをはじめとする水稻の品質向上をはかるため、技術面で改良協会の活動を支援していきます。



生産者 53 名、関係者 36 名が出席

農林センター（丹後農業研究所）

農林水産フェスティバル 2025 で宇治茶学舎を PR

当所では、令和元年に「宇治茶学舎」を設立し、宇治茶の新規就農者の育成に取り組んでおり、11月29～30日に京都府見本市会館(パルスプラザ)で開催された「農林水産フェスティバル 2025」において、府の農林水産業担い手育成拠点が出展したコーナーに「宇治茶学舎」として参加しました。コーナーには、2日間で347名の方が訪れました。

職員は来場者に京都府内で様々な種類の茶を生産していることを説明し、展示した「煎茶」「玉露」「てん茶」の茶を触ったり、香りを楽しむ体験をしてもらいました。

来場者からは、「宇治茶学舎はどこに在るのですか?」「こういう取り組みをやっているのですね」と関心が寄せられました。

今後もこうした機会を通じて、将来の担い手発掘につながるよう、学舎のPRを続けてまいります。



宇治茶学舎の展示ブース



3種の茶の手触りを確かめる来場者

試験研究課題:黒大豆エダマメを栽培する大規模営農組織における栽培技術
体系の確立と販売力の向上(令和7年度オープンイノベーション研究・実用化
推進事業)

緑肥を活用した黒大豆エダマメ害虫管理に関する

中間・現地検討会を開催

府内の黒大豆エダマメでは、栽培中にハスモンヨトウなどのイモムシが発生し、収量及び品質低下の被害が生じています。これらの害虫に対しては有効な殺虫剤が少ないため、生産者からは省力かつ効果的な防除技術の確立が求められています。

一方で、当センターでは、緑肥作物のヘアリーベッチをすき込むことにより、イモムシによる被害が軽減する現象を発見し、本年度から国の競争的資金を活用して、その発現メカニズムの解明に取り組んでいます。

11月5日と6日に、今年度の研究成果に関する中間検討会と現地検討会をそれぞれ開催しました。いずれの検討会でも共同研究機関と活発な意見交換を通じて、研究課題のブラッシュアップを行いました。今後は、得られたデータに基づき、緑肥を活用した新しい害虫管理技術を確立します。



中間検討会の様子



当センターの黒大豆エダマメ
ほ場における現地検討会の様子

エビイモの遺伝資源※の収穫及び保存

当センターでは、京の伝統野菜の 1 つであるエビイモの遺伝資源を毎年栽培し、系統の維持及び種芋の保存を行っています。今年度も、当センターで育成された品種を含む 5 品種・系統を栽培し、11 月下旬に収穫しました。

収穫後、個体ごとに収量性、芋の形、芋の付き具合及び各品種・系統固有の特性が維持されていることを評価し、優良な個体を選抜するとともに、種芋を保存しました。

当センターでは、今後も遺伝資源の維持及び保存を継続していきます。

※遺伝資源:栽培植物の改良に利用可能な遺伝的特性をもつ品種、系統、個体



当センターで育成された品種の優良個体

画像解析による体重推定システムを普及に向け肥育農家で検証

育牛の飼養管理を適切に行うためには、個体ごとの経時的な体重把握が重要ですが、体重計での測定は牛へのストレスや作業の労力面での課題があることから、当センターでは令和 4 年度に、画像解析により簡易に肥育牛の体重が推定できるシステムを開発しました。

今回、本システムに関心がある府内肥育農家で普及に向けた検証を行いました。

肥育後期の牛 5 頭の画像撮影と体重及び体高の実測を行い精度を検証したところ、5 頭中 3 頭で誤差率を 10%以内に抑えることができました。

検証には従業員も多数参加し、このシステムへの高い関心が伺え、農家からは、「精度向上と併せて、より使いやすく改良して欲しい」等の意見をいただきました。

今後も、より畜産現場で使いやすいシステムとなるよう、精度・利用性向上に向けた検討を進めていきます。



牛の写真撮影し体重を推定

ラボの開設に向けて厨房機器に関する情報を収集

当センターでは、食関連産業のイノベーション拠点として、令和9年に「京都プレミアム中食オープンイノベーションラボ」(仮称)を開設する予定です。企画連携室では、導入する機器の調査や食品加工に関する知識の習得を目的とした職員研修プログラムの企画、府内事業者へのニーズ調査を進めています。

11月7日には、大阪ガス(株)ショールームのハグミュージアムおよびホシザキ京阪(株)の本社テストキッチンを訪れ、業務用厨房機器に関する情報交換を行いました。

当センターでは、府内事業者のニーズに応えられる施設を開設するため、今後も調査や技術向上に取り組めます。



大阪ガスのハグミュージアムにてレトルト調理用機器について調査



ホシザキ京阪の本社テストキッチンにて各種業務用厨房機器について調査